畑中武夫先生の逝去を悼む

海野和三郎*

畑中さんは，私にとって先生と先輩の間といった，何よりも貴重な存在でした．先に「畑中教授逝去」の電文を受取り茫然自失した私は，いままたこの追悼文を書くに当って，南独ミュンヘンの雨もよいのたれこめた冬空を見上げて，暗たんたる想いにかられています．ましてや最愛の人を失われた奥様および伸びざかりのお子様方に対しては，その悲しみはいかばかりかと，ただひたすらお悔みを申し上げるばかりです．私ども天文学にたずさわる者としても，つい先頃前山仁郎氏を失って，いまさら損失の大きさを知ったばかりなのに，全く想像もしなかった畑中さんの御逝去にあって，もはや絶望に似た悲歎にくれることになりました．

学者として畑中さんほど行動半径の大きかった人を，いまだかつて知りませんでした．何げなくスイッチを入れたラジオ・テレビジョンで畑中さんの声咳に接した機会も一再ならずあったし，新聞雑誌は勿論文化講演会，さらには宇宙空間平和利用といった様な各種の国際会議にと，その広い識見のおもむくままに超人的な活躍をしておられ，予定メモはいつも一杯につまって真黒になっているのにいつも驚かされたものでした．畑中さんはすぐれた学者であるとともに，真の文化人といえる人でした．これはかの名著「星と宇宙」によって今なおその面影を知ることが出来ます．

昭和 19 年私が東大天文学教室に新入生として入ったときは，畑中さんは独身時代で助手をしておられましたが，身体はむしろほっそりとスマートな美青年でした．石田五郎君，大脇直明君などが私の同級生でしたが，これらの仲間達の間で天文の研究とはどんなことをやるのかが問題になり，諸先生や先輩方の論文をめくって見たことがありました．このとき「この畑中さんという人はすごく優秀な人だそうだ。」と仲間の物知りに聞かされたものでした．実際その頃畑中さんは，萩原先生の右腕として，惑星状星雲の物理学にその若い情熱をそそいでおられ，既にそのすばらしい研究業績で学位を得られたばかりの，新進気鋭のときでした．やや大きな黒目がちの目もとに，すずやかな微笑のかげを止めて通りすぎる畑中さんのスマートな姿に，地方の高校から来たばかりの私は，若き学者の典型を見る思いで，憧憬の念にかられたものでした．

戦争もやがて敗戦に終り，食糧事情の日ましに悪くなるころ，畑中さんは身体を悪くされて，故郷の新宮に帰っておられたことがありました．結婚されたのもほぼその頃のことではなかったかと思います．そして戦後再び活動を開始されたときは，かなり太っておられたような気がします．またその仕事ぶりも，その頃から一段と貫禄がついてきたように思われました．戦後灰燼の中より起ち上って，アカデミックな空気をわれわれにもたらしたものの一つに，今も続いている天文台の研究会，俗にマイナーと呼ばれるものがあります．これも畑中さんの音頭で始ったものでした．畑中さんはとぼしい文献を通じて入ってくる新知識を，適切に評価し紹介して後進の指導につくすとともに，他方わが国の電波天文学の基を築くために，鋭意力をそそがれたのもその頃からのことでした．これが今日，一流のスタッフを数多くかかえた，東京天文台天体電波部の繁栄をもたらしたことを思うと，畑中さんの先見の明には，つくづく感心させられます．自分の専門分野を大きく転向させることは，学者にとって非常に困難なことですが，畑中さんのこの先見の明と，事に処しての果断さとが，これを可能にしたものと思います．

畑中さんの人がらのよさ，広い協調性はまた非常なものでした．そのため交友も広く，皆に好かれていました．電波天文の発展のためには，いわゆる天文プロパーの人以外にさらに物理や電気工学の人の協力が必要でしたが，畑中さんの人格が，この難問題を解決するのにあずかって力があったように思われます．電波の人達が，国内の他の研究所との間は勿論のこと，外国の研究機関との間にも活発な学問的交流を持っておられるのを見ても，このことがよくあらわれているようです．国際人としての畑中さんもよく知られており，私の今いる研究所のビアマン教授なども畑中さんの亡くなられたことを聞いて，極めて残念な様子でした．

畑中さんの研究業績の立派さ，教育者としての功績の大きさは，いまさらいうまでもないことですが，畑中さんが将来を見通して研究機構の改革をはかり，その指導をする腕前は，またまことに天才的なものであったと私は信じています．将来こんな理想的な指導者がまたと得られないのではないかと思われて，畑中さんを失った穴の大きさが痛感されてなりません．私ども天文学教室のものとしても，今まですべて頼りきっていた支柱を突然失って途方にくれるばかりです．勿論私ども後進のものが奮起して，この穴を少しでもうめてゆくことが，畑中さんに報ゆる道であるとは思うものの，生前の畑中さんの力強い姿を思い浮べたときに，やるせない絶望感におそわれるのは，多分私一人ではないのではないでしょうか．謹んで畑中先生の冥福をお祈りいたします．

* 東大理学部